



JSPPO
Japan Sport Association

JSPPO Press Release

2020年度 No. 3 2020年4月28日 公益財団法人日本スポーツ協会 広報課発

世界で輝く未来のトップアスリート発掘プロジェクト J-STAR プロジェクト 1・2期修了生 トップアスリートへの道を目指す

スポーツを「する」「ささえる」「みる・表現する」ための環境づくりを行う JSPPO（正式名称：公益財団法人日本スポーツ協会 東京都新宿区／会長 伊藤雅俊）は、全国から将来性豊かなアスリートを発掘する「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト（J-STAR プロジェクト）」を実施しております。

同プロジェクトにおいて 2017 年度、2018 年度に修了した 1・2 期生が別紙のとおりトップアスリートへの道を歩みはじめております。

現在は新型コロナウイルスの感染拡大に対応するため、自宅等での練習を余儀なくされておりますが、今後の活躍が大いに期待されますので、是非、引き続きご注目ください。

なお、本年度募集する 4 期生の対象競技・応募方法等については、新型コロナウイルス収束状況に鑑み改めてお知らせいたします。

今般、新型コロナウイルスの影響により多くのアスリート、競技団体、スポーツ愛好者が活動できない状況ですが、一日も早い再開を願っております。

■「J-STAR プロジェクト」(※)、とは



世界で輝く未来のトップアスリートを発掘するプロジェクトです。スポーツ庁をはじめとする関係 5 団体が連携し、全国規模で将来性豊かな選手の可能性を見出します。オリンピック競技の対象者は主に中・高生(2020 年度は対象年齢を拡大予定)、パラリンピック競技は 12 歳以上(一部、対象障がい等の制限有)の方ならどなたでもエントリーすることが可能です。個人の体力・運動能力を測定後、世界レベルの指導者による 1 年間の合宿等のトレーニングを通じて自分に適した競技に出会い、自分自身の新しい可能性にチャレンジしていきます。プログラム終了後、有望者には中央競技団体(NF)の強化・育成コースへの道も開かれており、さらなる高みを目指す次世代アスリートを支援していきます。(注)対象競技は開催年度によって異なります。

※独立行政法人日本スポーツ振興センター委託事業

「アスリートパスウェイの戦略的支援(地域ネットワークを活用したアスリート育成パスウェイの整備)」

※詳細は別紙をご覧ください。

WE SUPPORT JAPAN SPORT.

JSPPO OFFICIAL PARTNER



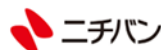
大塚製薬



三井住友海上
MS&AD INSURANCE GROUP

LOTTE

セレスポ



日本文化出版



J-STAR プロジェクト ～1・2 期修了生、トップアスリートへの道を目指す～

J-STAR プロジェクトでは、事業終了後、有望者には中央競技団体(NF)の強化・育成コースへの道も開かれています。1、2 期修了生 105 名のうち 24 名は下記のとおりパスウェイを歩み始めています!!

本プロジェクトは 2017 年度から国家プロジェクトとして始動し、今年で 4 年目を迎えます。1 期生から 3 期生においては、すでに国際大会等に出場するなど、大変目覚ましい活躍を遂げています。今後の 1～3 期生の活躍にもどうぞ、ご注目ください。

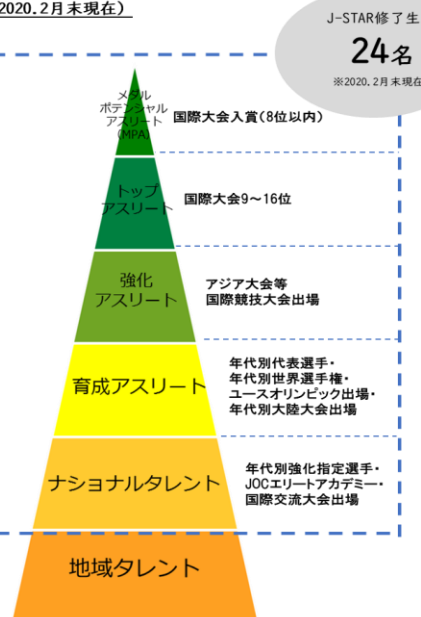
J-STAR プロジェクト修了生 ハイパフォーマンスパスウェイ進出状況 (2020.2月末現在)

都道府県	競技名	選手名
岩手県	ボート	前田佳奈
東京都	ボート ハンドボール ポッチャ ポッチャ	阿南美咲 平山美海 小川祐太郎 坂井結花
神奈川県	ポッチャ	木村菜葉
長野県	7人制ラグビー	中平あみ
愛知県	ハンドボール ソフトボール 水泳(身体障がい)	吉野瑞珠 黒田有紗 岡島貴太
	ハンドボール パラワーリフティング	井上あすか 林剛史
滋賀県	パラワーリフティング	森崎可林
京都府	パラワーリフティング	水江加奈子
和歌山県	ハンドボール	橋本真穂

都道府県	競技名	選手名
愛媛県	ウェイトリフティング	安部希美
	7人制ラグビー ボート	上田芽生 井上幸乃
山口県	ポッチャ	内田峻介
香川県	車いすフェンシング	阿部知里
福岡県	ボート 自転車	瀬川咲新 垣田真穂
熊本県	ハンドボール	作本夕莉
宮崎県	ハンドボール	轟山日和

■ トップアスリート ■ 育成アスリート
■ 強化アスリート ■ ナショナルタレント

— 1 期生
— 2 期生



注) ハイパフォーマンスパスウェイ：中央競技団体の強化・育成コース

注) 1 期・2 期生は修了生、3 期生は事業継続中(※)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在、2020 年度の 3 期生の合宿等は中止、居住地での個々の活動については継続中。

※出典：JSC「ハイパフォーマンスパスウェイ」

《2 期生注目選手をピックアップ!》



井上幸乃選手/ボート・高1

(2020 年度 JOC エリートアカデミー生)



安部希美選手/ウェイトリフティング・高2

(アジアジュニアユース選手権大会 45 kg 級第 4

位、全日本女子選抜選手権大会高校 45kg 級優勝)

井上選手、安部選手ともに、愛媛県「えひめ愛顔(えがお)のジュニアアスリート発掘事業」修了生

※愛媛県内のタレント(スポーツの潜在能力を有する有望アスリート)を発掘し、適性のある競技で世界での活躍を目指して育成を行う事業。

愛媛県以外でも全国各地で同様の事業が実施され、多数のタレントを世界で活躍するアスリートとして輩出している。

■事業概要／背景

2017年4月より開始された第2期スポーツ基本計画及び2016年10月に発表した「競技力強化のための今後の支援方針(鈴木プラン)」では、アスリートの発掘が重要な課題として位置付けられました。このことから、2017年度から、日本スポーツ協会(当時「日本体育協会」)は、日本スポーツ振興センターから委託を受け、「競技力向上事業」の一環として、全国の将来性豊かなアスリートを発掘するためのプロジェクト「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト(J-STAR PROJECT)」を実施しています。本プロジェクトは、スポーツ庁をはじめとする関係5団体が連携して全国各地で発掘プログラムを展開し、競技毎に世界レベルの指導者とともに合宿形式でのトレーニング等を行います。本プロジェクトを通じて、世界で活躍できる有望なアスリートを発掘し、競技団体の強化・育成コースに導きます。

<https://www.j-star.info/>

◆JSP0 (公益財団法人日本スポーツ協会) について

JSP0は、1911年7月に「国民スポーツの振興」と「国際競技力の向上」を目的に、大日本体育協会として創立。日本体育協会を経て、2018年4月1日、現在の名称となりました。

JSP0では、国民体育大会や日本スポーツマスターズなど各世代を網羅したスポーツ大会の開催、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブなどスポーツをする場の創出、スポーツの楽しみをサポートするスポーツ指導者の育成、最新の医・科学に根差したスポーツの推進など、誰もが自発的にスポーツを「する」「ささえる」「みる・表現する」ための幅広い事業を展開しています。また、わが国スポーツの統一組織として、国や60を超える競技団体、47都道府県スポーツ・体育協会など、様々なスポーツ関連団体・組織や個人と連携しています。

2019年の大河ドラマ「いだてん」で、主人公を導く重要な役回りとして登場した嘉納治五郎はJSP0の初代会長であり、JSP0は「いだてん」の舞台でもありました。



フェアプレイで日本を元気に ~あくしゅ、あいさつ、ありがとう~
目指せ100万人のフェアプレイ宣言! WEBで好評受付中!
<http://www.japan-sports.or.jp/fair/>

